

いのちへのまなざし

江角弘道
空外記念館理事長
臨済宗妙心寺派仁照寺住職

いのちへのまなざし（視点）

私達は、物事を価値があるか、価値がないかという視点（まなざし）で、通常見ているのではないのでしょうか。 だから、
「いのち」を見る視点として、「役に立つかどうか」ということで見ていることがほとんどではないのでしょうか。「役に立ついのち」と「役に立たないいのち」というまなざしだけでよいのでしょうか。

“いのち”の意味（国語辞典を参照）

- ①人間や生物が生存するためのもとの力となるもの。古事記では、「伊能知（イノチ）」と書き、万葉集では、「伊乃知（イノチ）」と書かれている。
- ②生涯。一生。生きている間。 ③運命。天命。「命なりけり」という使い方をする。
- ④唯一のたのみ。唯一のよりどころ。 ⑤そのもの独特のよさ。真髄。
- ⑥男女心中の入れ墨の文字〔命〕

私たちの命

人類は、6500万年前に地球上に出現した。地球上の生命は、40億年前に誕生した。最初の生命は約40億年前、地球誕生から6億年たった頃の海の中で誕生したと考えられている。生命は、あり得ないほどの極小の確率で、物質粒子から誕生したことになる。つまり私たちの命の起源は物質粒子である。さらに物質粒子は光から生成された。

山田無文老師の歌

大いなるものに 抱かれあることを、 今朝吹く風の 涼しさに知る。

空気のおかげさま

樹木達が光合成で酸素を作り、その空気中の酸素のおかげで生かされているのが人間であるわけです。呼吸ができるのは、空気があるからであり、それが私達を生かしている“いのちの根源”であり、“おおいなるもの”であり、霊性であり、仏性であり、阿弥陀如来様といえます。

阿弥陀仏とは、

阿弥陀仏 (amita buddha) は、サンスクリット語の音訳です。漢字に意味はない。阿弥陀 (a mita) は、a が「無、否定」で、mita が「計量された」、「計算された」の意味で、阿弥陀は、「無量」と訳します。いのちは計算できない。仏 (buddha) は、覚者 (悟れる者) の意味です。従って、阿弥陀仏は無量寿仏と漢訳されています。阿弥陀仏のことを、「計り知れないいのち」、「いのちの根源」、「見えないいのち」、「生死なきいのち」、「靈性」といいます。

靈性に目覚める

鈴木大拙師の「日本的靈性」という本の中で、
「靈性を宗教意識と言ってよい。宗教についてはどうしても靈性というべき働きがでてこないといけない。即ち靈性に目覚めることによって始めて宗教がわかる。」

この世のことは、すべて

「阿弥陀さまのおかげさま」です。

「いのちへのまなざし」とは、この世は、「おかげさま」のいのちの世界であるという視点を持って生活をするることである。

おかげさまの合掌 (作詞 江角弘道)

- 一、おかげさまです 人生は 大事にしようよ この命
みんなで幸せの 両手を合わそう
この世に生まれた幸せを この世に生まれた幸せを
明るく楽しく 生きようよ
- 二、悲しいときには 共に泣き 嬉しいときには 分けあって
みんなで感謝の 両手を合わそう
手を取り仲良く 生きようよ 手を取り仲良く 生きようよ
おかげ感謝で 生きようよ
- 三、この世に生まれた 幸せは あわせた両手の中にある
みんなでおかげの 両手を合わそう
互いにうやまい 助け合い 互いにうやまい 助け合い
越えてゆこうよ あの世まで

☆星影のワルツ調で☆